

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	環境園芸学科				
科目名称	哲学				授業形態	講義			
科目コード	110420	単位数	2単位	配当学年	1	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	長友 泰潤							ICT活 用	○
授業概要	入門編として「哲学」とは何かという問を出発点に、哲学発祥の地である古代ギリシャと周辺地域の古代文明との関わりや、哲学者たちの思想と時代背景について学んでゆく。学生が意欲を持って授業に参加できるように、グループ学習を導入する。タレス・ピュタゴラス・デモクリトスなどの古代哲学者の中から、一人選び、図書館や情報処理室、WIFIの使える場所において、資料研究を行い、パワーポイント作成を作成し、発表する。								
関連する科目	心理学								
授業の進め方 と方法	学生が積極的に、授業に参加できるように、グループ学習のシステムを導入する。学生は、与えられたテーマの中から、例えば、タレス・ピュタゴラス・デモクリトスなどの古代哲学者の中から、一人選び、図書館や情報処理室、WIFIの使える場所において、資料研究を行い、パワーポイント作成を作成し、発表する。それらの発表に対して、他の学生も参加した質疑応答を行い、その後、補足説明を行う。								
授業計画 【第1回】	哲学が古代ギリシャで、生まれたかについて、時代背景をもとにわかりやすく解説する。								
授業計画 【第2回】	まず、グループを作り、テーマとして与えられた、例えば、タレス・ピュタゴラス・デモクリトスなどの古代哲学者の中から、一人選ぶ。図書館や情報処理室、WIFIの使える場所において、資料研究を行い、パワーポイントを作成する準備をする。								
授業計画 【第3回】	上記の結果をもとに、テーマを絞り込んでいくとともに、情報処理室やWIFIの使える場所でパワーポイント作成の準備をする。								
授業計画 【第4回】	それぞれのグループが選んだテーマが重ならないように調整し、選んだテーマで、パワーポイントを作成する。								
授業計画 【第5回】	イオニヤ学派（タレス・アナクシマンドロス・アナクシメネス）について学生が発表し、質疑応答を行う。								
授業計画 【第6回】	ピュタゴラス学派について学生が発表し、質疑応答を行う。								
授業計画 【第7回】	ヘラクレイトスについて学生が発表し、質疑応答を行う。								
授業計画 【第8回】	エレア学派について学生が発表し、質疑応答を行う。								
授業計画 【第9回】	多元論者について学生が発表し、質疑応答を行う。								
授業計画 【第10回】	古代原子論について学生が発表し、質疑応答を行う。								

授業計画 【第11回】	ソフィストについて学生が発表し、質疑応答を行う。
授業計画 【第12回】	ソクラテスについて学生が発表し、質疑応答を行う。
授業計画 【第13回】	プラトンについて学生が発表し、質疑応答を行う。
授業計画 【第14回】	アリストテレスについて学生が発表し、質疑応答を行う。
授業計画 【第15回】	各グループの発表内容に基づいて、総括する。
授業の到達目標	1. 哲学発祥の地であるギリシャと古代文明の関りや、哲学者達の思想と人物像、時代背景、宗教や自然科学との関係について理解する。 2. 哲学の基本用語について理解する。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)
授業時間外学習【予習】	1. プレゼンテーションとパワーポイント作成の準備のため、図書館で関連書物を検索・読者し、必要な情報を集める。(60分程度) 2. インターネット情報を活用し、関連する情報・資料を収集し、検討を行う。(30分程度) 3. スライド作成作業を続けながら、プレゼンテーションの内容を充実させていく。(30分程度)
授業時間外学習【復習】	1. 他のグループのプレゼンテーションの内容を検討し、問題点を探る。(60分程度) 2. その検討をもとに、自分たちのプレゼンテーションへのフィードバックを行う。(30分程度)
課題に対する フィードバック	各グループの発表内容・質疑応答に基づいて、解説と評価を行う。
評価方法・基準	1. プレゼンテーションで作成したスライドの内容・・・・・・25点 2. プレゼンテーションのやりかた、質疑応答への対応・・・・・・25点 3. 質疑応答への参加度（質問回数・答弁回数等）・・・・・・50点
テキスト	必要に応じて資料等を配布する。
参考書	必要に応じて資料等を配布する。
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		宮崎キャンパス		開設学科		管理栄養学科／食品開発科学科		
科目名称	哲学						授業形態		講義	
科目コード	110420	単位数	2単位	配当学年	1	実務経験教員			アクティブ ラーニング	○
担当教員名	長友 泰潤								ICT活 用	○
授業概要	入門編として「哲学」とは何かという問を出発点に、哲学発祥の地である古代ギリシャと周辺地域の古代文明との関わりや、哲学者たちの思想・宗教との関係や時代背景について学んでゆく。学生が意欲を持って授業に参加できるように、グループ学習を導入する。タレス・ピュタゴラス・デモクリトスなどの古代哲学者の中から、一人選び、図書館や情報処理室、WIFIの使える場所において、資料研究を行い、パワーポイント作成を作成し、発表する。									
関連する科目	心理学									
授業の進め方 と方法	学生が積極的に、授業に参加できるように、グループ学習のシステムを導入する。学生は、与えられたテーマの中から、例えば、タレス・ピュタゴラス・デモクリトスなどの古代哲学者の中から、一人選び、図書館や情報処理室、WIFIの使える場所において、資料研究を行い、パワーポイント作成を作成し、発表する。それらの発表に対して、他の学生も参加した質疑応答を行い、その後、補足説明を行う。									
授業計画 【第1回】	哲学が古代ギリシャで、生まれたかについて、時代背景をもとにわかりやすく解説する。									
授業計画 【第2回】	まず、グループを作り、テーマとして与えられた、例えば、タレス・ピュタゴラス・デモクリトスなどの古代哲学者の中から、一人選ぶ。図書館や情報処理室、WIFIの使える場所において、資料研究を行い、パワーポイントを作成する準備をする。									
授業計画 【第3回】	上記の結果をもとに、テーマを絞り込んでいくとともに、情報処理室やWIFIの使える場所でパワーポイント作成の準備をする。									
授業計画 【第4回】	それぞれのグループが選んだテーマが重ならないように調整し、選んだテーマで、パワーポイントを作成する。									
授業計画 【第5回】	イオニヤ学派（タレス・アナクシマンドロス・アナクシメネス）について学生が発表し、質疑応答を行う。									
授業計画 【第6回】	ピュタゴラス学派について学生が発表し、質疑応答を行う。									
授業計画 【第7回】	ヘラクレイトスについて学生が発表し、質疑応答を行う。									
授業計画 【第8回】	エレア学派について学生が発表し、質疑応答を行う。									
授業計画 【第9回】	多元論者について学生が発表し、質疑応答を行う。									
授業計画 【第10回】	古代原子論について学生が発表し、質疑応答を行う。									

授業計画 【第11回】	ソフィストについて学生が発表し、質疑応答を行う。
授業計画 【第12回】	ソクラテスについて学生が発表し、質疑応答を行う。
授業計画 【第13回】	プラトンについて学生が発表し、質疑応答を行う。
授業計画 【第14回】	アリストテレスについて学生が発表し、質疑応答を行う。
授業計画 【第15回】	各グループの発表内容に基づいて、総括する。
授業の到達目標	1. 哲学発祥の地であるギリシャと古代文明の関りや、哲学者達の思想と人物像、時代背景、宗教や自然科学との関係について理解する。 2. 哲学の基本用語について理解する。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)
授業時間外学習【予習】	1. プレゼンテーションとパワーポイント作成の準備のため、図書館で関連書物を検索・読者し、必要な情報を集める。(60分程度) 2. インターネット情報を活用し、関連する情報・資料を収集し、検討を行う。(30分程度) 3. スライド作成作業を続けながら、プレゼンテーションの内容を充実させていく。(30分程度)
授業時間外学習【復習】	1. 他のグループのプレゼンテーションの内容を検討し、問題点を探る。(60分程度) 2. その検討をもとに、自分たちのプレゼンテーションへのフィードバックを行う。(30分程度)
課題に対する フィードバック	各グループの発表内容に基づいて、解説と評価を行う。
評価方法・基準	1. プレゼンテーションで作成したスライドの内容・・・・・・25点 2. プレゼンテーションのやりかた、質疑応答への対応・・・・・・25点 3. 質疑応答への参加度（質問回数・答弁回数等）・・・・・・50点
テキスト	必要に応じて資料等を配布する。
参考書	必要に応じて資料等を配布する。
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科		
科目名称	哲学						授業形態		講義	
科目コード	110420	単位数	2単位	配当学年	2	実務経験教員			アクティブ ラーニング	○
担当教員名	長友 泰潤								ICT活用	○
授業概要	入門編として「哲学」とは何かという問を出発点に、哲学発祥の地である古代ギリシャと周辺地域の古代文明との関わりや、哲学者たちの思想・宗教との関係や時代背景について学んでゆく。学生が意欲を持って授業に参加できるように、グループ学習を導入する。タレス・ピュタゴラス・デモクリトスなどの古代哲学者の中から、一人選び、図書館や情報処理室、WIFIの使える場所において、資料研究を行い、パワーポイント作成を作成し、発表する。									
関連する科目	心理学									
授業の進め方 と方法	学生が積極的に、授業に参加できるように、グループ学習のシステムを導入する。学生は、与えられたテーマの中から、例えば、タレス・ピュタゴラス・デモクリトスなどの古代哲学者の中から、一人選び、図書館や情報処理室、WIFIの使える場所において、資料研究を行い、パワーポイント作成を作成し、発表する。それらの発表に対して、他の学生も参加した質疑応答を行い、その後、補足説明を行う。									
授業計画 【第1回】	哲学が古代ギリシャで、生まれたかについて、時代背景をもとにわかりやすく解説する。									
授業計画 【第2回】	まず、グループを作り、テーマとして与えられた、例えば、タレス・ピュタゴラス・デモクリトスなどの古代哲学者の中から、一人選ぶ。図書館や情報処理室、WIFIの使える場所において、資料研究を行い、パワーポイントを作成する準備をする。									
授業計画 【第3回】	上記の結果をもとに、テーマを絞り込んでいくとともに、情報処理室やWIFIの使える場所でパワーポイント作成の準備をする。									
授業計画 【第4回】	それぞれのグループが選んだテーマが重ならないように調整し、選んだテーマで、パワーポイントを作成する。									
授業計画 【第5回】	イオニヤ学派（タレス・アナクシマンドロス・アナクシメネス）について学生が発表し、質疑応答を行う。									
授業計画 【第6回】	ピュタゴラス学派について学生が発表し、質疑応答を行う									
授業計画 【第7回】	ヘラクレイトスについて学生が発表し、質疑応答を行う									
授業計画 【第8回】	エレア学派について学生が発表し、質疑応答を行う									
授業計画 【第9回】	多元論者について学生が発表し、質疑応答を行う									
授業計画 【第10回】	古代原子論について学生が発表し、質疑応答を行う									

授業計画 【第11回】	sソフィストについて学生が発表し、質疑応答を行う
授業計画 【第12回】	ソクラテスについて学生が発表し、質疑応答を行う
授業計画 【第13回】	プラトンについて学生が発表し、質疑応答を行う
授業計画 【第14回】	アリストテレスについて学生が発表し、質疑応答を行う
授業計画 【第15回】	各グループの発表内容に基づいて、総括する。
授業の到達目標	1. 哲学発祥の地であるギリシャと古代文明の関りや、哲学者達の思想と人物像、時代背景、宗教や自然科学との関係について理解する。 2. 哲学の基本用語について理解する。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)
授業時間外学習【予習】	1. プレゼンテーションとパワーポイント作成の準備のため、図書館で関連書物を検索・読者し、必要な情報を集める。(60分程度) 2. インターネット情報を活用し、関連する情報・資料を収集し、検討を行う。(30分程度) 3. スライド作成作業を続けながら、プレゼンテーションの内容を充実させていく。(30分程度)
授業時間外学習【復習】	1. 他のグループのプレゼンテーションの内容を検討し、問題点を探る。(60分程度) 2. その検討をもとに、自分たちのプレゼンテーションへのフィードバックを行う。(30分程度)
課題に対する フィードバック	各グループの発表内容に基づいて、解説と評価を行う。
評価方法・基準	1. プレゼンテーションで作成したスライドの内容 25点 2. プレゼンテーションのやりかた、質疑応答への対応 25点 3. 質疑応答への参加度（質問回数・答弁回数等） 50点
テキスト	必要に応じて資料等を配布する。
参考書	必要に応じて資料等を配布する。
備考	